

韓国ユネスコ大邱協会訪問団との親善さらに深まる！

12月5日、韓国ユネスコ大邱協会訪問団10名のみなさんは、インチョン空港から広島空港に來られました。



姜鎬曾総領事とパク・ジョンソク ユネスコ大邱協会会長



駐広島大韓民国総領事へ表敬訪問

昼食後、駐広島大韓民国総領事への表敬訪問に伺いました。姜鎬曾総領事から歓迎のお言葉をいただき、その後は日本と韓国の日常生活における違いなどの話題に花が咲きました。

6日午前中は、尾道を訪問しました。道中のバスの中ではそれぞれが自己紹介を行いました。大邱の皆さんが翻訳アプリを使いながら日本語で自己紹介された姿に、この交流に対する熱い思いを感じ、とても嬉しかったです。ロープウェイで千光寺頂上展望台へ。展望台から見る景色の美しさに大邱の皆さんから大きな歓声が上がりました。天気がよかったため引き立つ空や海の青さ、黄葉した木々、そして尾道水道に沿った「中世からの箱庭的都市」として日本遺産の認定を受けた街並みがマッチして、何とも言えない美しい景観でした。久しぶりに尾道を訪れた広島の



千光寺頂上展望台から望む



千光寺頂上展望台にて

メンバーも美しい景色に感動しました。

朝鮮王朝 4 代王世宗は、倭寇の禁圧対策の要請や日本の国情視察のため朝鮮通信使を当時室町時代だった日本に数回派遣しています。1420 年に派遣された宗希環(そう きけい)が書いた旅行記「老松堂日本行録」には、尾道を訪れた時の様子を「寺(天寧寺)の北に大石あり」と記しています。600 年前の歴史にも心を馳せながら友好を深めました。

昼食後、瀬戸内海が多島美を眺めながら、しまなみ海道を通り生口島の耕三寺に。ここでは未来心の丘、千佛洞地獄峡、本堂などを訪れました。未来心の丘は、広島県世羅郡宇津戸出身の彫刻家である杭谷一東氏がイタリア・カッラーウで採掘した大理石を運び「体で触れ、自然と一体になり、それぞれの想いを巡らせてほしい」との願いをもち 12 年もの歳月をかけてつくった庭園です。

広島平和記念資料館東館 1 階にも杭谷一東氏作成の大理石の「ローマ法王平和アピール碑」が設置されています。



耕三寺にて



耕三寺未来心の丘

7日は、江戸時代の朝鮮通信使が12回のうち11回立ち寄った「潮待の港」鞆の浦に行きました。日本と韓国が歴史の壁を乗り越え、共同提案し、2017年に世界記録遺産となった「朝鮮通信使に関する記録：17世紀から19世紀までの日本と朝鮮の平和構築と文化交流の歴史」の登録資料のうち1件6点は、福禅寺の所蔵資料です。

当時、迎賓館として使用された対潮楼でガイドから詳しい話を聞きました。壁にはレプリカではあるが「日東第一形勝」の額字、「対潮楼」の額字、「漢詩七言律詩」3点と「韓客詞花」が飾られていました。

常夜灯や雁木などの江戸時代の港湾施設や古い街並みが残る鞆の浦を散策しました。そんな中にも最新式の防潮堤が地中につくられていました。



地中にある防潮堤



対潮楼にてガイドからの説明



古い町並で



太田家住宅の帳場で



いろは丸展示館にて



江戸時代から残る浜の大雁木

7日18:30からは、広島ガーデンパレスで韓国大邱訪問団の歓送迎会を開催しました。駐広島大韓民国総領事館の申東允副領事をはじめ崔恩碩前任研究員、日韓親善協会寺内優事務局長のご来賓のご臨席もいただきました。総勢40名あまりの参加者が、両協会の深い信頼関係を確認することができ、今後もよりよい交流を誓いあった和やかな会になりました。今回の交流をとおり、「人の心の中に平和のとりで」が築かれたことも確信いたしました。

8日の朝、訪問団の皆様は広島空港から帰国されました。交流期間中にお世話になりました姜鎬曾総領事をはじめ総領事館の皆様や通訳をしてくださった方々、そして広島ユネスコ協会の皆様には心よりお礼を申し上げます。



松岡盛人会長挨拶



申東允副領事挨拶



ユ大邱感想発表



古田碩永副会長挨拶



広島空港から帰国